



おいづよいぞできるぞ

新井小学校たより 5月号

令和元年5月29日

HPアドレス <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/arai-s/>

運動会から思うこと

校長 宮野 正則

この時期、多くの小学校で運動会が行われています。秋に実施する地域もありますが、全国の70%近くの小学校が春に実施しており、新潟県では、ほとんどが春実施のようです。

日本では、明治時代末期から「国威発揚」「富国強兵」「健康増進」を目的として始まり、広く社会に普及しました。当時、参加者が一定のプログラムで、競技や演技を行う形式は、近代日本独特の体育的行事とされました。現在でも、多くの学校がこの形式を継承しており、紅白（赤白）など色別にチームを編成して対抗するのが一般的です。

運動会は、学習指導要領において「特別活動」の学校行事「健康安全・体育的行事」に位置付けられています。その内容は、心身の健全な発達や健康の保持増進、規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などです。

当校では、4月23日(火)の運動会結団式を皮切りに、本格的な取組を開始しました。学年での練習は体育の時間で、全校での練習も必要最小限にし、効率的な練習に努めました。

5月25日(土)、すばらしい快晴のもと、多くの保護者や地域の方々においでいただき、令和元年度の新井小学校運動会を実施しました。30度超えの気温が想定される中、招集所等でのテントの設置、必要に応じた屋内への退避など、できる限りの熱中症対策を講じ、児童の健康管理を第一とすることを確認し合っただけの実施となりました。

そんな心配をよそに、子どもたちは、日頃の学習の成果を十分に発揮し、たくましい姿を見せてくれました。私が強く印象に残った姿は、次の2点です。

1点目は、勝利を目指して最後まで全力で競技する姿です。3年生以上のリレーでは、目まぐるしく順位が入れ替わる手に汗握る好レースが展開されました。差が開いた場面もありましたが、ゴールまで一生懸命に走る姿が多く見られました。



2点目は、みんなの心を一つにした応援です。元気のよい応援歌、みんなでそろえる振り付けなど、競技する仲間を鼓舞するだけでなく、見ている人の胸を打つものがありました。また、終了後のお互いの健闘を讃え合う姿にさわやかさを感じました。

1年の中で、こんなにも大きな声を出すこと、勝ち負けにこだわることはないでしょう。これこそが運動会のもつ教育的意義です。勝利を目指して全力を出し切ることで、結果にかかわらず大きな成就感や満足感を得ることができ、見ている人にも大きな感動を与えました。新井小学校の目指す「豊かな心、たくましい体」を育てることができたと確信しています。

毎年、教育活動の見直しを進めていますが、運動会は教育的効果の大きい学校行事であると、改めて実感しました。これまでの理解とご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

令和最初の熱い暑い運動会 たくさんの感動がありました！



昨年より大きな輪で踊った「あらいばやし」



30℃を超える暑さの中、新井小学校のグラウンドも熱く盛り上がりました。
閉会式では、応援賞カップを手に白組団長が「赤組の皆さん、白組と最後まで戦ってくれてありがとう。白組の皆さん、応援団に最後までついてきてくれてありがとう。保護者と地域の皆さん、僕たちを最後まで応援してくださって、本当にありがとうございました。」と感謝の言葉を発表しました。そして、総合優勝旗を手にした赤組団長は「思い出に残る最後の運動会だった。ありがとうございました。」と達成感いっぱいの言葉を返しました。会場は大きな拍手に包まれました。

第1回学校運営協議会を行いました



5月9日(金)に、第1回の学校運営協議会を行いました。新井小学校の様子を知っていただこうと、給食試食会、昼休みや掃除の様子、授業を参観していただきました。和やかな雰囲気の中で子どもと一緒に給食を食べたり、汗だくで遊ぶ様子を見ていただいたりすることを通して、ありのままの子どもの姿を基に学校教育の立場、地域の視点から子どもを育てることについて活発な意見交流が行われました。改めて、学校と地域が力を合わせ、それぞれの立場で子どもたちの成長を支えていこうと確認し合いました。

また、委員の皆様からは、今年度の学校経営方針等について承認していただきました。今後も、子どもや教職員、保護者、地域にとって魅力あるコミュニティ・スクールとなるように取り組んでいきます。

〈学校運営協議会 委員〉

No.	氏名(敬称略)	所属等	備考
1	新井 時男	前 白山町町内会長	会長
2	田中 功	矢代地域づくり協議会 会長	副会長
3	江口 香代	PTA 副会長	事務局長
4	増村 正勝	白山町町内会長	
5	小川喜美子	姫川原地区コミュニティ運営協議会 幹事	
6	宮田 友子	主任児童委員	
7	宮腰トク子	地域人材コーディネーター	
8	佐藤 賢治	上越教育大学 特任教授	
9	岡本 幸子	さくらこども園 園長	
10	松橋 賢一	PTA 会長	
11	宮越 元樹	PTA 副会長	
12	宮野 正則	校長	
13	三田村尚子	主幹教諭	事務局次長

〈活発な意見交流がされました〉

子どもたちの挨拶は少しずつよくなってきている。地域差がある。挨拶運動に参加していると、学年差も感じる。

授業で児童に「どうしてそう思うのか」問い直したり、「なぜ〇〇しなければならないのか」と主体的に考えさせて納得させたりしていた。

子どもは地域の宝である。もっと児童の活躍を広めたい。

「チーム新井小」として、情報共有を速やかに、短時間でも直接顔を合わせて行っているところがよい。先生方が、一人で抱え込まないでほしい。

子育て中の親は、困ったり手を貸してほしいときどこに相談しているのか。地域差や児童数減少は課題だ。

登下校について、道路の右側を歩くのが基本だが、左側を歩いている実態がある。理由は？

地域で子どもをもっとほめたい、子どもと関わって、子どもも親もほめたいという地域の想いがある。

園でも縦割り活動で思いやりの心を育てている。「チーム保育」も同様。情報共有している。



これらのご指摘や協議内容を受けて、早速「あいさつ」等について学年・学級指導を行いました。また、登下校については、状況を確認し安全指導を行いました。

今年度の校内研修

〈研究主題〉 「主体的に対話し、高め合う児童の育成」



昨年度の授業研究を振り返ると、学習課題の工夫、特に活動目標を明確にすることが児童の主体的対話を促す手立てとして有効でした。また、グループ編成の工夫、考えを表出するための手立ての工夫、学習形態の工夫が、主体的対話から深い学びにつながる事が明らかになりました。さらに学びが深まるように、対話の量と質を高めることが課題です。

今年度は、全校体制で組織的に研究を進めるために、研究教科を算数に絞ります。児童が主体的に話す、相手に分かるように考えを伝える、相手の考えを理解する、自分の考えと関連させるなど主体的に対話し、話し合いの中で折り合いを付け、新しい考えを生み出し高め合う姿を育てていきます。

1 主体的な対話を促す授業づくり

児童の学習意欲を喚起する課題を設定することで、「解き方を伝えたい」「友達の意見を聞きたい」という思いを高め、主体的な対話につながっていくと考えました。さらに、児童の考えの表現方法や伝え方を工夫し、「相手に分かるように話す」「相手の考えを正しく理解する」能力（スキル）を育成するために、下記の三点に取り組んでいきます。



① 課題設定の工夫

② 児童の考えの表し方の工夫

「進んで話す・聞く」から、「相手に分かるように自分の考えを話す」「よく聞き相手の考えを理解する」児童の姿を目指します。そのために、順序よく（論理的に）話すための手立てを工夫します。学年の児童の実態に応じて、以下のポイントを重視します。

- ・算数的なキーワードを使って考えを話す（書く）。
- ・論理的な書き方を示す。「考え→理由」
- ・順序を示す言葉「はじめに」「次に」「つまり」を使う。
- ・よい話し方（書き方）のモデルを示す。
- ・ヒントを使って考えを書く。

対話のポイント

- ① しっかり聞く。
- ② 受け止める。
- ③ 受けて返す。
- ④ 最後に考えをまとめる。

③ 「対話」する場面の意図的な設定

- ・児童に任せる場面、教師が介入する場面を考えて、指導過程や学習活動を構成する。
（対話時間を決める、出された意見を分類する等）
- ・意見の表出方法を工夫する。（ネームプレート、付箋等）
- ・発言者が教師ではなく児童に向かって話すように意識させ、児童の発言を響かせる。
（発言者の言うことを別の児童に説明させる 等）
- ・学習展開を工夫する。（見通しをもたせた活動…活動の順序や時間を示す）
- ・学習ゴールを板書で示す。（認める、評価する）

2 自信をもって話す能力（スキル）を付ける指導

話す力のポイント（中学校区共通取組）を意識し、音声発表の基礎を養う活動を設定します。

3 安心して自己表出ができる、思いを語れるような受容的・自治的な学級集団づくり

「対話」を成り立たせるには、どんな意見でも受容される学級であることが土台となります。そのために、傾聴の態度を身に付けたり、テーマに沿って自由に話し合う経験を積んだりすることが必要です。また、教室環境のユニバーサルデザイン化を進めていきます。